

連載企画 SDGs取り組み事例紹介

株式会社山田組

～インフラの高寿命化という「環境」貢献～



【会社概要】

1954年（昭和29年）創業。名古屋市に本社を置き、土木工事全般、環境・景観整備工事等を手掛ける会社で、管路更生については、1970年代の水道管の内面補修からはじまり、現在では下水道など地下埋設物のリニューアルに幅広く貢献している。

また、2006年から環境活動報告書を毎年発行し、その中で「環境貢献をめざす地元建設業者」として市民に向けた、環境出前講座をはじめ多数の各種イベントを継続して開催しており、その姿勢は地域から称賛されている。

【話し手】

(株)山田組 代表取締役社長 山田 洋二郎

——SDGsの取り組みをはじめたきっかけについてお聞かせ下さい。

2005年に愛知県で開催された愛・地球博のテーマが“環境”でした。それを機に、愛知県や名古屋市などの発注者が、民間企業の環境面における取り組みについて、相対的に高く評価されるようになり、且つ、当社もその理念に賛同できたことが大きな契機となりました。

またその当時、会社として何か良いアイディアはないか提案するように、個別に促された側面もあり、干潟の保護活動などを積極的に手掛けてきました。

元々この地域では、以前から当社と同様の活動をしている企業は多く、エコ事業所として認定する制度がありましたが、2019年に名古屋市がSDGs未来都市に選定されたのを機に「なごやSDGsグリーンパートナーズ」として、SDGsを意識しながら環境に配慮した事業活動を自発的かつ積極的に行うことを支援されるものになり現在に至っています。

もちろん他のどの企業でも名古屋市に申請し、活動内容が認められると、同じくグリーンパートナーズとして認定されます。

——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

まず挙げられるのが、施工時に土を掘らないので建設発生土がまったく無いため環境への負荷が軽く済む点です。当社では一般土木や開削工事も取り扱っているため、管路更生工法の廃棄物の少なさはよく実感できます。

以前は引き取ってもらった土が何処へいくのかまでは興味がありませんでしたが、例の熱海の土石流災害が発生してからは、盛り土へ転用される心配が無いという事は、改めて大きなメリットだと思います。



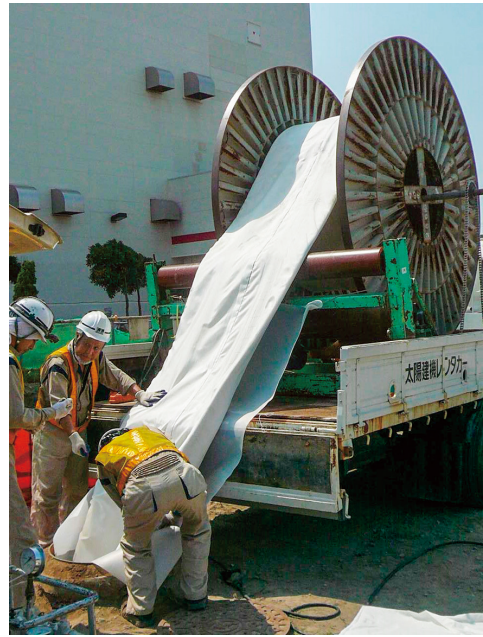
❖なごやSDGsグリーンパートナーズとは❖
事業活動においてSDGsの実現に向け取り組む事業所を、名古屋市が「なごやSDGsグリーンパートナーズ」として登録・認定し、自主的な取り組みを支援するものです。

すね。これは伝聞ですが、水田を無料で埋めると言いながら実は不法投棄だったなどの事例もあるらしいので、建設発生土の処理は社会問題でもあるのではないのでしょうか。

また、道路の掘削が無いという事は、重機の燃料消費も大幅に削減できます。当社では更に、独自の取り組みとして、廃油を利用した再生燃料（バイオディーゼル燃料）を購入して工事用の重機・ダンプに使用しています。未だ一般的に流通していないためコスト的には高くなりますが、環境貢献のため、当社敷地内に給油機を設置して活用しています。

このような取り組み一つ一つが社員一人当たりCO₂排出量の逡減につながっているのだと思います。

一方、人材確保の面ですが、以前はベテランばかりに偏っていましたが、待遇条件を見直して最近では20代の社員を継続して採用できています。若い人は管路更生への関心が高く、会社として採用アピールするには前面に出すようにしています。これからも管路の維持管理の仕事というものは、需要がずっと続くという点を評価しているようですね。外国人

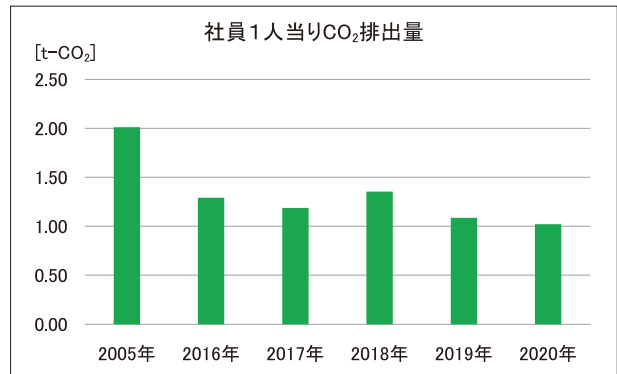
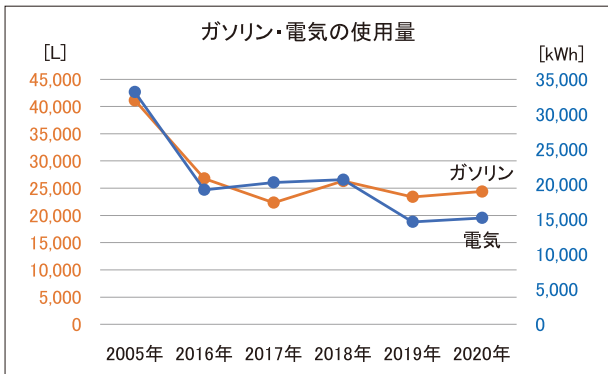


の技能実習生も受け入れてはいますが、逆に外国人は年配者が中心になっている傾向です。現状ではコロナ禍の入国規制もあって0名ですが。

〈社内のバイオ燃料給油機〉



〈給油している様子〉



❖2005年をベンチマークとして、2020年までのガソリン、電気、および都市ガスの使用量に次の排出係数を使ってCO₂排出量を換算し、さらに毎年の社員数で除して1人当たり排出量を算出したものです。

ガソリン	0.00232 t/L	電気	0.000494 t/kWh	都市ガス	0.00229 t/m ³
------	-------------	----	----------------	------	--------------------------

〈ミズバオオバコの保護活動〉



〈施工現場の様子〉



——SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社ではSDGsという概念が無かった頃から環境保護活動に取り組み、周囲からは奇異に見られていたかもしれません。世間的には当時、本業と環境等への取り組みとは相反するもので、土木工事は環境を破壊しているようなイメージの一方で、慈善活動をやっている印象を持たれていましたが、SDGsとしての枠組みが浸透した現在では、本業と一体化(CSV)していると発注者側にも評価されるようになったと感じています。

また、嬉しいことに本業においても若い人達が自発的に施工現場や周辺環境をキレイにするが当然という感覚で自発的に行動してくれているので、私も積極的に褒めるように心掛けています。

因みに、移動中のアイドリングストップは、車中の熱中症が心配になるくらい浸透していますね(笑)



——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

今やっている活動をあと8年積み重ねていった姿ですが、いつもの活動を少し頑張ればできるレベルというものが、皆の気持ちを長続きさせるポイントだとシンプルに考えています。

気候変動・生物多様性はさらに多くの事が求められると予想されますので、これからの業務上の判断もそれらの配慮がなされているか、常に検証していかねばなりません。大企業ではないため社員全員がスターとなって社業に取り組んで続けていき、小中学校への環境出前講座も社員誰もが出来るようにレベルアップしていきたいと思えます。



〈環境出前講座〉

〈インターンシップ〉

